



クロスチェック

CROSSCHECK - JAPANESE

CrossCheck by Paul Adams

www.crosscheck.org.uk

Copyright © 1992, 1997, 2000, 2007, 2010, 2015, 2016, 2019, 2021, 2023, 2025 Paul Adams

Design and typesetting by Ben Desmond

www.bendesmond.com

Translated by Yuko Footman

First booklet edition printed in English in 2008 by BeaconLight

books@beaconlight.co.uk

www.beaconlight.co.uk

ISBN 978-1-906526-46-7

Scripture and additional materials quoted are from the Shinkaiyaku 2017 translation.
Copyright held by Shin-nihon-seisho-kankoukai, 2-8, Yotsuya, Shinjyuku-ku, Tokyo 160-0004, Japan.
Published by Inochinokotoba, 2-1-5, Nakano, Nakano-ku, Tokyo 164-0001, Japan

クロスチェックへ、ようこそ！

神は果たして自分を受け入れてくれるのかとの疑問を持つ人は多いはずです。

活躍、成功（時には失望）、楽しみ以外に人生には、“もっと他に何かがあるはず”と思う人はたくさんいます。
ーそう、人が神と友達になれると聞いたら驚きますか。

幸い、神を知ることは可能です！神の愛と赦しと平安は誰でも体験できます。
しかしそれ以上に、神はあなたと友達になりたいと願っています。

クロスチェックでは、キリストを通して、神と友情関係をどう築けるかをできるだけ簡単に説明します。

既に、この冊子は神との友情関係を望むひとたちの役に立ち、中にはキリストを受け入れた人たちもいます。

人生にはもっと良いものが期待できるので、神はあなたに、是非それを探って欲しいと望みます。
[この小冊子の前半は聖書の福音について語ります。](#)
[後半では、神との関係に於けるあなたの立ち位置をクロスチェックします。](#)

さあ、心をオープンにして、一読してみませんか...

One

神は主権者で、王冠を戴く方。すべてにおいて力があり、すべてのことに権威を持つ方。その一言があれば、どんな事も可能です。

神は「無」に向かって言葉を放ち、太陽、月、星、そしてこの世を創造しました。
この世に人間の男女を住まわせ、わたしたちを地球の管理人としました。

神がわたしたちを造った当時、神と人との間にはオープンなコミュニケーションがありました。神と人とは友達でした。

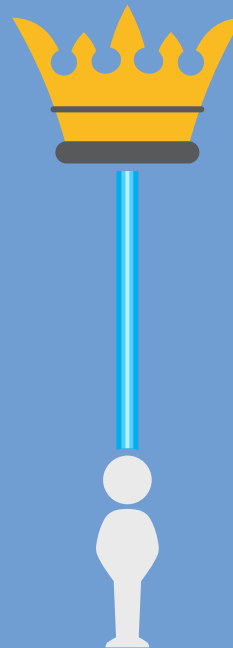
神は人に地球の管理方法を教えました。使用人ではなく、神の家族の輪の中に含まれる友として。

神は人をはじめ、すべての創造を終えた時、大満足し「すべてを良し」とされました。
[旧約聖書創世記1章26－27節](#)

旧約聖書創世記1章26－27節

²⁶ 神は仰せられた。「さあ、人々をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう。こうして彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地の上を這うすべてのものを支配するようにしよう。」

²⁷ 神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。



Two

神は自然の法則や人間の言動に、ルールを作りました。しかし人はすぐに「ルールなんかない。思い通りに支配したい。人こそ支配者で、自分なりのやり方でやる」と神に反抗しました。

これは今現在も続く最大の問題です。人が心に持つプライドには「自分」という文字が大書されています。これこそが罪です。

罪は、神と人とのコミュニケーションを阻みます。罪は神の愛からわたしたちを引き離す暗雲です。
[旧約聖書イザヤ書59章1～2を読みましょう。](#)

結果として、人は主権者である神を無視し、押しのけ、自分たちが支配者、人生と運命は自分たちのものと宣言したのです。

こうして人はますます神から離れ、コミュニケーション・ギャップは広がる一方となり、とうとう神の言葉を解さなくなりました。神がデザインした地球のルール、人がどのように人生をマネージしたら幸せになれるか等も、わからなくなりました。

いくら人がベストを尽くして来たと言っても、神のオリジナル・デザインを無視してきたのでわたしたちは皆、環境汚染等の過ちを犯しました。

もちろん正しい人生を完璧に生きることは誰にもできません。でも、現状のままでは肉体が朽ち果てない限り、神との友情から引き離されたまま生きることになります。わたしたちは神への反抗的な態度を改め、神に立ち返る必要があります。

[新約聖書ヘブル人への手紙9章27節](#)を読みましょう。

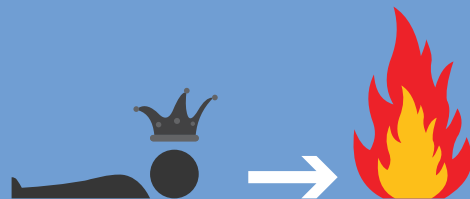
旧約聖書イザヤ書59章1～2節

¹ 見よ。主の手が短くて救えないのではない。その耳が遠くて聞かないのではない。

² むしろ、あなたがたの咎が、あなたがたと、あなたがたの神との仕切りとなり、あなたがたの罪が御顔を隠させ、聞いてくださらないようにしたのだ。

新約聖書ヘブル人への手紙9章27節

²⁷ そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、



Three

神は造ったものを、すべて愛します。

そして驚いたことに、人がどんなに反抗して自己中心で、神の御心から離れても、それでもまだ人を愛します。

わたしたちが、最後の裁きにあって苦しまないことを願います。罪が、神の愛を疎外することを神は嘆きます。このままでは人が罪に蝕まれ滅ぶと神はご存知で、なんらかの手立てを講じたいと願っています。

一方、神は天地創造の前から、既に人を救う計画を立てていました。

その計画とは、人を神の懷に戻すため、神の独り子イエス・キリストを世に送るというものです。（キリストは人のかたちをとった神です）

新約聖書ヨハネによる福音書3章16節を読みましょう。

キリストの計画がどんなに素晴らしいものだったかは新約聖書ペテロ第一の手紙2章24節に書かれています。

キリストは、すべての人々の罪咎を十字架（クロス）上で一身に受け死にました。（人の罪を体の中にとりこみました。）世界中の人の一人一人の罪。過去、現在、未来をも含む罪を。

キリストはわたしたちの身代わりになって処罰を受けました。

キリストは神の独り子でしたから、罪を知らない方でした。罪の無い神の子の死によって、人の罪は肩代わりされました。

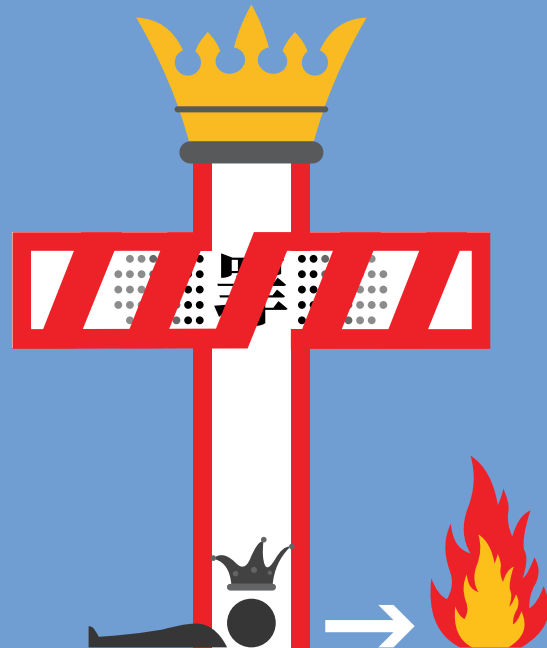
キリストはわたしたちを愛し、今も喜んで身代わりになります。

ヨハネによる福音書3章16節

¹⁶ 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

ペテロの手紙 第一 2章24節

²⁴ キリストは自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。それは私たちが罪を離れ、義のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒やされた。



Four

けれども、キリストは死で終わらず、よみがえりました。（こうして反逆の罪は神の目に白紙とされ、人は神の前に義とされました。）

キリストが死に打ち勝ち、よみがえった後は、もはや空っぽの十字架があるだけ。神と人との明確なコミュニケーションの道が新たに開かれました。人とのコミュニケーションこそ、神が常に望むところです。

人が神のルールに従い、神との和を保ちながら生きることこそが、神の念願です。今やキリストが、わたしたちの身代わりとして犠牲になったので、わたしたちはキリストから恩恵を受ける者となりました。

次の聖書箇所を読んでみましょう。
[新約聖書コリント人への手紙第二5章15節](#)

せっかくキリストがわたしたちの罪の身代わりとなり死んでくださったのに、多くの人たちは、あいかわらず冠を自分の頭の上に載せます。キリストの十字架とは無関係に人生設計をします。

それでは神は反抗を続ける人には神との友情関係を拒むのでしょうか？ そのひとたちは、何が正しいのかわからず、分別もなく神の最後の審判に直面するのでしょうか？

赦しの恵みが与えられたのに、依然と反抗を続けるひとは誰でも自分の言動に対して申し開きすることになります。次の聖書箇所を読みましょう。

[新約聖書使徒の働き17章30～31節](#)

新約聖書コリント人への手紙第二5章15節

¹⁵ キリストはすべての人のために死なれました。それは、生きている人々が、もはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえった方のために生きるためです。

新約聖書使徒の働き17章30～31節

³⁰ 神はそのような無知の時代を見過ごしておられましたが、今はどこでも、すべての人に悔い改めを命じておられます。³¹ なぜなら、神は日を定めて、お立てになった一人の方により、義をもってこの世界をさばこうとしておられるからです。神はこの方を死者の中からよみがえらせて、その確証をすべての人にお与えになったのです。



Five

ですから、すべての人が新しい命を得ることを神は願います。誰でもキリストの十字架を通し、神と新たなコミュニケーションをとる道が開かれているのです。それは十字架の元に命の門が開いたかのようです。次の聖書箇所を読みましょう。

[新約聖書ヨハネの黙示録3章20節](#)

わたしたちの心の戸口の外にキリストは立ち、中に入れてくださいと戸を叩きます。わたしたちが悔い改め、戸を開ければ、キリストはわたしたちの人生の只中に入り共に暮らします。（食事と共にします）

歓迎の食事会だけではなく、これは一種の取引とも言えます。つまりキリストが払った犠牲はわたしたちの罪を帳消しにするに十分という証拠です。そして、自らわたしたちの人生を立て直す責任をおってください。ビジネスに例えるなら、以前のマネジメントが終わり、新しいマネジメント傘下に入ったという看板を、神が掲げたも同然です。

この看板には「GOD & SONS (神と子供たち)」とあります。次の聖書箇所を読んでみましょう。

[新約聖書ヨハネの福音書1章12節](#)

キリストが聖霊によって人に内在することはロボットのようにコントロールされることではありません。むしろキリストは、父なる神のビジネスを経営するシニア・パートナーで、わたしたちが、神直属のジュニア・パートナーになることを意味します。

わたしたちの人生における毎日の生活はわたしたちの責任です。その一方で、聖書の教えと、力強い神の臨在が、わたしたちを支えます。

キリストはわたしたちと常に共にいてくださると約束されました。次の聖書箇所を読みましょう。

[新約聖書マタイの福音書28章20節](#)

新約聖書ヨハネの黙示録3章20節

²⁰ 見よ、わたしは戸の外に立ってたたいている。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしはその人のところに入って彼とともに食事をし、彼もわたしと共に食事をする。

新約聖書ヨハネの福音書1章12節

¹² しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。

新約聖書マタイの福音書28章20節

²⁰ 見よ、わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。



Six

この冊子の前半では神の福音を学びましたが、今度は、いろいろな角度からクロスチェックしてみましょう。

多くのひとたちは、人に教えられるよりも、自分の立ち位置を自分で確かめたいと思うはず。その一人一人の旅路を応援するために簡単なチェック・リストを紹介します。

段階的なクロスチェックは次のページ以降です。

Accept（受け入れる）

Believe（信じる）

Consider（考慮）

Do（行動） Repent...（立ち返る）

Receive...（受け取る）

Accept (受け入れる)

Accept - boxes 1 & 2

ボックス1

あなたは次のことを受け入れますか

- 神は主権者
- 神はすべての創造者
- 神は神が創造した世界の管理をまかせるため、男女と子供を造った。
- 神がはじめて人を造った際、神と人との明確なコミュニケーションの道は存在した。

ボックス2

あなたは次のことを受け入れますか

- 神はルールを設定する方
- 自己中心という罪は存在する。
- 罪は神と人との友情を妨げる。
- 罪とは神の権威に対する反抗
- 人は自分勝手な人生を生きたがる。
- 反抗の責任を問われるのは当然のこと
- 神は反抗し続ける人を最終的に裁く。

同意の場合は□に☑を。

☐

Accept (受け入れる)

Believe (信じる)

Consider (考慮)

Do (行動) Repent... (立ち返る)

Receive... (受け取る)

1



2



Believe (信じる)

Believe - boxes 3 & 4

ボックス3

あなたは次のことを信じますか

- 神はご自分の創造したものを愛する。
- 反抗の末の結末から人を救おうと神は願う。
- イエス・キリストは神である。
- キリストは実在した。
- キリストは実際、十字架の刑で死んだ。
- その死はすべての人が犯した罪の罰を帳消しにするためだった。

ボックス4

あなたは次のことを信じますか

- キリストは死からよみがえられた。
- 神と人が友達になることは可能
- 神は人が自己中心ではなく神の御心に叶うよう生きることを願う。
- キリストの十字架の赦しにもかかわらず、人は依然と自分が人生の主役と思っている。
- 神は人が神に立ち返り神と生きることを強く願う。

同意の場合は□に☑を。

☐

Accept (受け入れる)

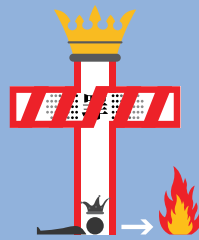
Believe (信じる)

Consider (考慮)

Do (行動) Repent... (立ち返る)

Receive... (受け取る)

3



4



Consider(考慮)

考慮してみませんかーあなた自身の冠を取り去ることを

自分の冠を自ら脱ぐとは次のような意味があります。

- 神の主権を受け入れる。
- 自分の過去の反抗心を認める。
- 神の権威を喜んで受け入れる。
- 神の御心に叶うよう生きる。
- 罪を犯し続けない選択をする。

Accept（受け入れる）

Believe（信じる）

Consider（考慮）

Do（行動） Repent...（立ち返る）

Receive...（受け取る）

同意の場合は□に☑を。

☐

Do (行動) Repent Receive

ボックス5

あなたは、

- キリストがあなたの心の戸を叩いているのが聞こえますか？
- その戸を開けますか？
- キリストをあなたの人生に招き入れますか？
- キリストによってあなたの人生を清めていただきませんか？
- 聖霊と一緒に歩き、新しい人生を歩みませんか？

チェックリストのすべてのボックスに同意して☑を入れたなら、既にあなたはキリストを主、救い主、友として受け入れています。

もし、キリストを心に迎えていない場合は次のページをみてください。

同意の場合は□に☑を。

☐

Accept (受け入れる)

Believe (信じる)

Consider (考慮)

Do (行動) Repent... (立ち返る)

Receive... (受け取る)

5



A Decision (決断) - 決断に向けて

もし、キリストがあなたの心の戸を叩いていることに気づいているのなら、

そして、自我の冠を脱ぐ用意があるなら、今こそキリストを迎え入れる時です。

次の祈りを口に出して祈ってみるとよいかもしれません。

愛する主なる神様へ

あなたが常に義の方で良いものをくださることを感謝します。

私があるに反抗し、これまで、この世の破壊や負の力に加担してきた罪をどうぞ赦してください。

あなたは私の罪を憎みますが、私のことは愛してくださいます。

あなたの豊かな慈愛と恵みに心から感謝します。

あなたの独り子キリストを世に送られ、私の罪の身代わりとさせ、私の罪の代価を払ってくださったことを感謝します。

今日もキリストが生きておられ、私の悔い改めを強く願ってくださることを感謝します。

ごめんなさい。どうぞ、これまでの罪を赦してく下さい。

どうか今日から私の人生に伴ってください。私はキリストを喜んで自分の心にお迎えします。聖霊が私を満たしてくださり、あなたのもとでの新しい人生を、どのように歩いたらよいかを導いてくださいますように。

私の人生に入ってきてくださったことを感謝します。

アーメン

もし、あなたが罪を悔い改めるのなら、
そしてキリストを人生に迎え入れたなら：

キリストはあなたの心の中に入られたのです！

これは約束です。

最後に一言

他のクリスチャンたちに、あなたが神の家族の一員になったと伝えてください。

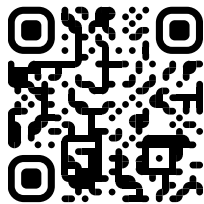
生まれたばかりのクリスチャンですから、その歩みを助けてもらってください。

(クリスチャンとは既にキリストと人生を共に歩いている人のこと)

info@crosscheck.org.uk



You can also watch the
video, in English, at:
www.crosscheck.org.uk



▲
scan the QR code



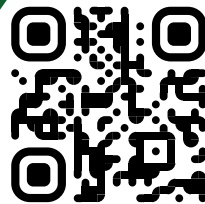
Word@Work

ユニークで無料の解説付きデモンストラ
ションアプリ
とメール。

聖書に基づいた生活を送り、神の真理を他の
人に伝えるための力を与えてくれます。

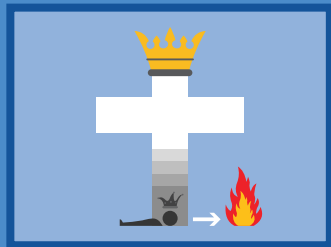
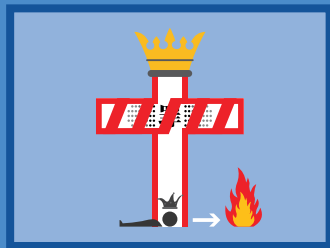
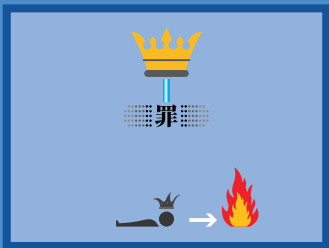
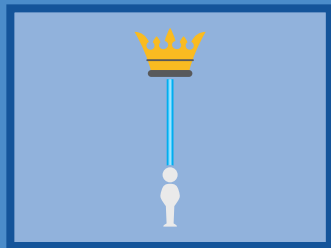
世界中のクリスチャンに愛されています。

ダウンロードまたは登録は無料です。



wordatwork.org.uk

▲
scan the QR code



Accept (受け入れる)
 Believe (信じる)
 Consider (考慮)
 Do (行動) Repent... (立ち返る)
 Receive... (受け取る)